

2018年2月20日

東急建設株式会社

建設現場IoTプラットフォームを適用した実証実験の開始について

～施工管理のさらなる効率化による生産性向上への挑戦～

東急建設株式会社（東京都渋谷区：社長 飯塚恒生）は、建設現場の生産性向上と働き方改革などを目指し、都内の建築現場において「建設現場IoTプラットフォーム」β版*を適用した実証実験（以下P○Cと記す）を株式会社NTTドコモの協力のもと開始しました。

本P○Cでは株式会社NTTドコモが提供する「建設現場IoTプラットフォーム」β版を適用することで、従来個別に開発されてきた様々な社内情報システムをプラットフォーム上に統合し、従業員や協力会社が、知りたい場所で、知りたい時に必要な情報を引き出せる利便性を検証していきます。

人口減少による担い手不足や、建設業に携わる人の高齢化などへの対応が問われるなか、建設現場の生産性向上は、喫緊の課題となっています。当社では、ICT技術の積極的活用のために『ICT戦略』を策定しており、そのなかで特に重点を置いている項目が、ICT活用による建設現場の「生産性向上」です。

また、建設現場に特化したIoTを駆使したプラットフォームを適用することで、「生産性向上」のみならず、「働き方改革」の推進、「品質／安全性向上」にも寄与すると期待しています。

このP○Cでは、その初段として「建設現場IoTプラットフォーム」β版を適用。現場で発生するあらゆる情報をデータとして吸い上げ、収集したデータの一元管理が可能となります。次に、リアルタイムでの状況確認を行い、ダッシュボード機能を通じて、収集したデータの見える化・見せる化が実現します。なお、一部取得データの分析によって、個々の機能と生産性の向上などに対する有効性を評価します。

さらに当社では、将来的に先進ICT（AI、ロボティクスなど）を組み合わせることで、施工管理の高度化にとどまらず、施工（作業）そのものの生産性向上の実現化を目指していきます（図1．建設現場IoTプラットフォームの概念参照）。

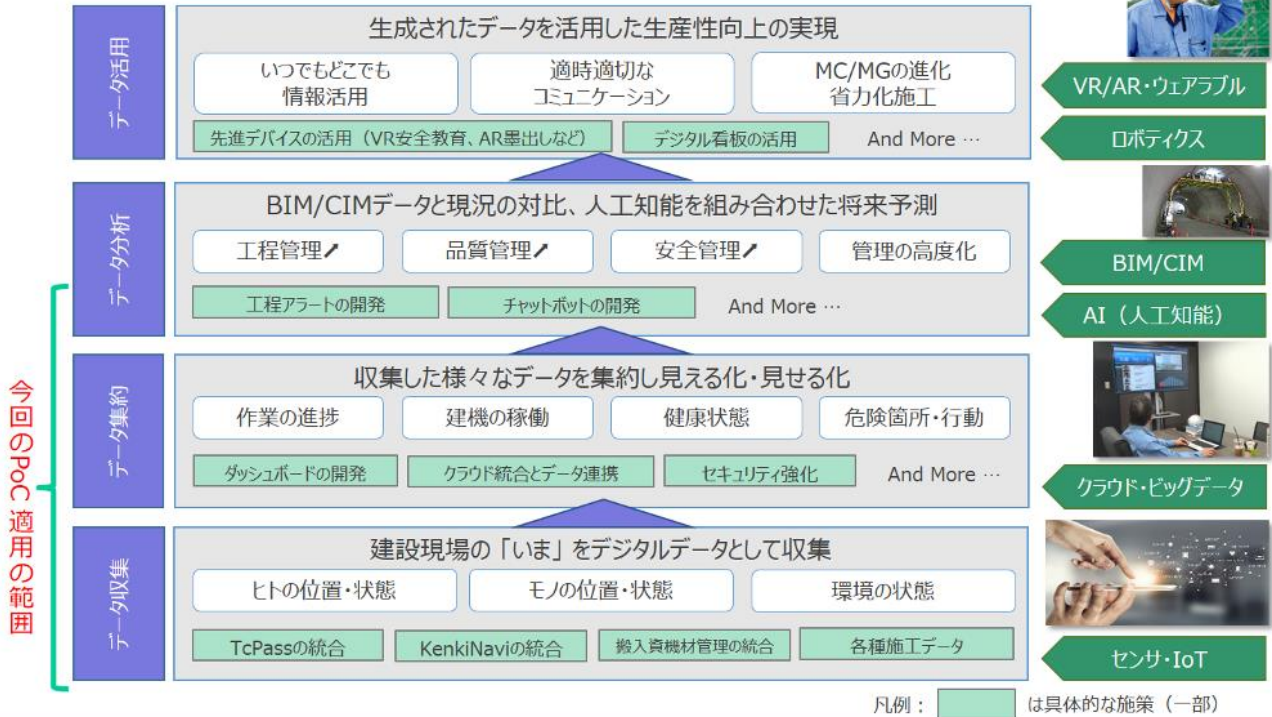
*「建設現場IoTプラットフォーム」β版

株式会社NTTドコモが、建設現場の工期を遵守しながら働き方改革を実現するため、ヒト・モノ・データ+AI分析技術を用いて、建設現場状況をリアルタイムで共有する「建設現場IoTプラットフォーム」のβ版のこと

詳細は、以下URLを参照ください

https://www.nttdocomo.co.jp/binary/pdf/info/news_release/topics/topics_180220_00.pdf

建設現場IoTプラットフォームを適用することで、従来個別に開発されてきたシステムをプラットフォーム上に統合し、さらに先進ICT（AI、IoTなど）を組み合わせることで施工管理の高度化と生産性の向上を実現しようとする概念



© TOKYU CONSTRUCTION

図1. 建設現場IoTプラットフォームの概念

今後も、東急建設はICTをはじめとしたさまざまな先端技術を活用して、建設現場における課題解決を目指します。



東急建設は、『ICTの積極活用』による新たな価値の提供と業務プロセスの革新に取り組んでいます

【本件に関する問合せ先】

東急建設株式会社 管理本部 経営企画部 広報担当 渡鍋

TEL 03-5466-5008 FAX 03-5466-5069 E-mail:webmaster@tokyu-cnst.co.jp